

事例17

< 事例概要 >

人工股関節全置換術

① 60 歳代、体重60 kg台、肝硬変、器質化肺炎に対し、ステロイド療法中の患者。血小板数7万/ μ ℓ台。

② 変形性股関節症に対し、人工股関節全置換術を施行。

③ 開始直後から出血が多く、寛骨臼の切削が出血で見えにくかった。手術操作中に、寛骨臼と大腿骨の骨折を認め、キルシュナー鋼線で固定した。血圧40 mmHg台となり、赤血球液をオーダーし、閉創直前に投与。術中出血量1,300 mℓ。終了時Hb 5 g/dℓ台。退室時バイタルサイン不明。

④ 病棟帰室約1 時間後、血圧50 ～ 60 mmHg台となり、昇圧薬の持続投与を開始。約3 時間後、創痛、殿部痛あり。Hb 5 g/dℓ台、出血220 mℓあり。約7 時間後、血圧50 mm Hg台、心拍数120 回/分台、ドレーン出血量は管内のみ。約10 時間後、JCSⅢ - 300、下顎呼吸となり、気管挿管。昇圧薬を増量し血圧60 mmHg台、心拍数40 回/分台。CT 施行（詳細不明）。術後2 日目に死亡。

⑤ 死因は、出血性ショックによる多臓器不全。死亡時画像診断（Ai）有（手術部周囲・後腹膜に血腫）、解剖 無。